

リマSOLタイム

(そうごうてきな学習の時間)

リマ日本人学校では、各学年でテーマを決めて取り組んでいます。このページでは、小学部3年生の取り組みの様子を紹介します！



一年間取り組むリマSOLの時間ですから、テーマを決めるのはとても大切な話し合いです。「6人みんなが楽しそうだな！ やってみたいなあ！ 知りたいなあ！」と思える内容を考えました。でも、遊びの時間じゃないからね。「どうしてやりたいの？ 何のためにやるの？」をじっくり考えました。その結果、「**ペルーの家と日本の家**」に決まりました。理由は、「ペルーの家と日本の家をくらべてみたいから」「どんな材料でどうやってつくるのか知りたいから」「家が古くなったらどうなるか知りたいから」「つくるのにかかるお金のちがいを知りたいから」「家をつくってみたいから(グランドのすみ？ミニチュア)」でした。これからの取り組みが楽しみです。



テーマが決まって、さっそく図書室の本から、ペルーと日本の家の作り方や材料などが書いてある本をさがしました。5さつくらい見つかりました。でも、むずかしい漢字やことばも入った本だったので、先生といっしょに読むことにしました。そして、わかったことはノートに書いてまとめました。



次に、パソコンを使ってインターネットでも調べてみることにしました。パソコンの使い方は先生におしえてもらいました。「クリック」とか「ローマ字入力」のやり方が分かったところで、さっそくけんさくしました。よさそうなページが見つかったらほぞんしておいて、あとでみんなで読みました。



人に聞く、本やインターネットで調べる、という活動に一段落をつけ、これまで分かったことをまとめてみることにしました。ペルーと日本それぞれの今と昔の家について模造紙に書きました。みんなで調べて分かったことをもとに、どの家をつくってみたいか、考えました。



これまで分かったことをもとにして、次なる目標は、「アドベづくりの家をつくる」になりました。アドベとはペルーで昔から使われている家づくりの材料の一つで、日干しレンガのことです。日干しレンガの材料は分かったのですが、どこで買えばよいか、いくらくらいかかるのか、などの問題にぶつかりました。写真は、建設中のアドベづくりの家の写真です。



冬休みに分かったことと1学期に調べてきたことをもとにして、いよいよ着工です。まずは、アドベを作る型を作りました。木の板を切ってヤスリをかけ、材料を準備しました。次に組み立てです。まず始めに木工用ボンドを使って仮組立をしました。そして、釘打ちのために、キリで少し穴を開けました。まっすぐに穴を開けます。釘もまっすぐに打ちたいのですが、なかなかうまくいきません。少し曲がっては修正し、まだ曲がっては…をくり返しました。それでも、全員きれいに出来上がりました。



はじめは、買ったアドベ用の土を使ってみました。水を加えながら、足で踏んで粘土状になるまでこねました。また、家が計画通りの大きさになるよう、芝生を剥がしました。場所は、グラウンドの隅に決まりました。



調べて分かったやり方でアドベづくり開始です。まずは、抜けやすくするため、型を水でぬらします。次に、つくった粘土を型に詰め込みます。空気が入らないように詰めるのには少しコツがいりました。すり切りいっぱいまで詰めたら、ひっくり返して、抜けるように作っておいた底板を押します。これもコツがいりました。



しかし、土が足りません。そこで、建設予定地の土を掘り出しました。掘った土には石がいっぱい。丁寧に石を拾い出してから、今度は少しずつ水でこねました。



これができたアドベレンガです。土嚢袋3つで約50個のレンガができました。校庭の隅に並べて干しています。早く乾くのが楽しみです。



屋根や入り口、窓をつくる時は、木の棒や板が必要になります。そこで、使わなくなったスノコなどを解体して材木を準備しました。



基礎をつくっています。まず、床になる四つ角にまっすぐに棒を立てます。でも、地面は平らではありません。少し傾いています。そこで、糸につるしたおもりはまっすぐ下に向く、という性質を利用して棒を立てました。次に、基礎は同じ高さの平面にしなければなりません。そこで、ホースの中に入れた水の両端の水面は、同じ高さになる、という性質を利用して、立てた棒に同じ高さの印を付けました。



基礎が完成しました。これまでにできたアドベは、2週間で約280個。はじめは、アドベの型を水で濡らして抜けやすくしていましたが、それでもかなり力が要りました。そこで、これまで調べたことの中に「型に砂をぬっておくと抜きやすい」と分かっていたことに気づき、やってみたら「あら、かるーい。」今までよりずっと簡単に、きれいな形に抜けるようになりました。



組み立てるためのモルタルをつくっています。モルタルとは、レンガとレンガをくっつけるセメントのような役割をするものです。アドベと同じ土をドロドロ状態になるまで水を加えて作ります。



いよいよ組み立て開始。基礎の上に、モルタルをぬって、レンガを並べていきます。四つ角に立てた棒に糸をかけ、その糸に合わせるようにまっすぐ並べます。



一段目の完成です。家の形に見えてきました。2段目を積むときは、1段目と互い違いになるように並べます。1段積むのに52個のアドベが必要だと分かりました。



着工から3週間。6段まで積み上がりました。この間も、モルタルやアドベ用の土をとるために、床になるところの地面をほっています。だんだん、床が低くなってきたので、入り口に階段を作りました。



着工から1ヶ月。8段まで積み上がりました。床の部分の土を掘り、石を取りだしてから水を混ぜてこね、型につめてアドベを作る、、、そして一段ずつ組み立てています。総合的な学習の時間だけでなく、放課後や休み時間もつかってがんばっています。



着工から40日。10段まで組み立てました。左右のかべに空けた窓は、10段目で閉じました。窓の上になる部分に木の板を渡してその上に板の厚さ分、うすく作ったアドベをのせました。当初からの目標は13段。いよいよカウントダウンです。



着工から約50日後。12段まで組み立てました。入り口の所も、板をはさんでとじました。また、じょうぶになるように、向かい合ったかべに棒をつけました。



翌日、13段目完成。とうとう組み立て完了です！これまでに使ったアドベは、約670個。土をとるために掘った床の部分は、80cmも掘り下がりました。中に入ると、身長175cmの担任でも、補強の角材に頭が当たることはありません！ここまで本当によくがんばりました。10段目が終わってカウントダウンに入ってから、何だか寂しささえ感じるほど、一つひとつ、まさに積み重ねてきました。今後は、壁表面の下処理をして、上塗り作業へ進んでいく予定です。



11月26日。とうとうアドベづくりの家が完成しました！組み立てが終わり、一回目の上塗りをしてから、文化祭に向けた活動が本格化したため、2週間ほど作業を中断していました。文化祭が終わり、作業再開。上塗りをさらに2回、土を使い切るまで行いました。そして、屋根をつけて完成です。屋根に使った材木は、学校で使わなくなった廃材を利用しました。屋根をつけるといっそう家らしくなりました。子ども達は大喜びで、完成したときには「やったー！アドベの家、完成！！バンザーイ！！！」と大声で叫びました。校舎にいた他の学年も顔をのぞかせ、口々に「おめでとう！」と言ってくれました(ちょうど、全学年、学級活動の時間でした)。



この写真は、担任から子ども達へのご褒美として製作した「アドベづくりのバーベキューコンロ」です。家の中に作りました。



アドベの家が完成したことを記念して、全校を招き、ソーセージバーベキューをしました。アドベの家の中につくったアドベのバーベキューコンロで炭をおこし、串に刺したソーセージを焼いて、全校に一人2本ずつプレゼントしました。児童・生徒会の企画で、この3年生企画をよい機会に「この日は全校で外でお昼を食べよう」ということになり、アドベの家完成記念パーティーは、より盛り上がりました。3年生はみんな張り切って準備していましたし、他の学年のみんなにもとても楽しんでもらえました。



3学期になり、完成間近で一時帰国していた子も戻ってきたので、小学部3年生全員でアドベの家の完成記念パーティーを行いました。間もなく日本に帰る子もいたので、保護者の方々もいっしょにお別れ会を兼ねて行いました。保護者の方々が持ち寄ってくださった料理とアドベの家の中で焼いたソーセージなどをいっしょに食べました。とても楽しいひとときでした。



日本でこのホームページを見た方から、ペルーにいる日本人の方に連絡が入って、わがアドベの家の作り方などを取材に来られました。自分達の成果を、外部の方々が興味をもってください、わざわざ取材にまで来ていただいたのはうれしいことです。

[3年生のトップページへもどる](#)